

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助演習V Guidance in Fieldwork of Social WelfareV		2年	後期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	講義	選択 (社会福祉士国家試験受験資格取得必修)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大熊 信成・中島佳子	福祉棟3F	月～金9:00～17:00(授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
相談援助実習の意義を理解し、現場実習を通して、大学で学んだ知識・技術などを具体的かつ実際に理解できるよう学習を進めていく。授業では、実習の振り返り、スーパービジョンが中心となる。				
授業の到達目標				
福祉に関する相談援助の専門職としての自覚をもち、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的・客観的に対応できる能力を培うことができるようにする。				
授業の方法				
基本的に演習形式で授業を行う。必要に応じて講義も取り入れる。現場実習の振り返りを通して、実習報告書を作成し、学内実習報告会で発表する。				
学習の成果				
①福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を持つことができる。 ②専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握などを修得することができる。 ③ソーシャルワーカーとして、総合的・客観的に対応できる能力を持つことができ、それを実践することができる。 ④パワーポイント、エクセルなどを自在に操れる技術を修得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスに沿って授業のねらいと進め方、成績評価等)【大熊・中島】			
第2回目	実習の振り返り：実習記録の見直し【中島】			
第3回目	実習の振り返り：自己評価と施設評価、その比較【中島】			
第4回目	実習の振り返り：グループ討議及び個人ワーク【中島】			
第5回目	実習の振り返り：グループ討議及び個人ワーク【大熊】			
第6回目	事例検討【大熊】			

第7回目	事例検討【大熊】	
第8回目	実習報告書の作成①【大熊・中島】	
第9回目	実習報告書の作成②【大熊・中島】	
第10回目	プレゼンテーションの方法、実習報告会の企画【大熊・中島】	
第11回目	実習報告会発表準備：視聴覚資料の作成【大熊・中島】	
第12回目	実習報告会①【大熊・中島】 パワーポイントを用いて発表報告会を行う。	
第13回目	実習報告会②【大熊・中島】 パワーポイントを用いて発表報告会を行う。	
第14回目	実習報告会振り返り【大熊・中島】 振り返りシートの作成。	
第15回目	実習の評価・全体総括【大熊・中島】	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	20%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、授業に臨むことができる。
レポート		
調査報告書	30%	報告書の内容が明確な理論と根拠に基づいており、課題に対する意欲を窺うことができる。
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容(態度含む)	50%	パワーポイントで資料を作成し、発表を行う。聞き取りやすく明確な根拠に基づき発表を行うことができているかを評価する。
その他		
教科書と参考図書		
教科書：ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブック「相談援助実習」川延宗之他、「相談援助演習」弘文堂、「福祉小六法2010年度版」ミネルヴァ書房 他 授業中に指示します。		
履修上の心得・ルール		
グループ発表や個人発表を行うので、学生の積極的な参加を望みます。他の学生の課題発表は積極的に聞くこと。私語、遅刻、早退は厳禁。		